

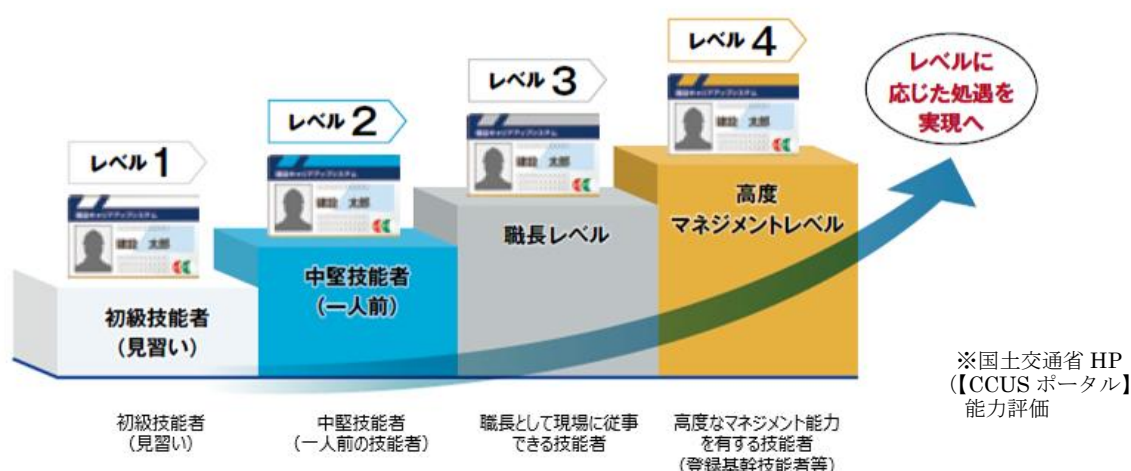
経営状況分析センター西日本(株)は、皆様のお役に立てますよう「信頼・スピード・誠実」をモットーに迅速かつ正確な分析業務を心がけております。今後共、当分析センターをご利用の程お願い申し上げます。

建設キャリアアップシステム(CCUS)レベル評価とは？

人材の確保、処遇改善、公共工事での評価…。建設業を取り巻く課題が増える中、事業者が取り組むべき制度として注目されているのが 建設キャリアアップシステム(CCUS) です。技能者の情報を一元管理し、会社の強みを客観的に示すことができる新しいインフラとして、導入企業が急速に増えています。

今回は CCUS のレベル評価について解説します。CCUS では、技能者の“経験年数・保有資格・施工実績”を総合して、1～4 のレベルに段階評価します。これは「経験」「資格」「実績」を見える化する制度で、技能者の処遇改善や、事業者の適正な評価につながる仕組みです。

レベル評価の全体図



CCUS レベルアップの具体的な手続き方法

- ✓ STEP1:事業者と所属技能者がそれぞれ CCUS へ登録(事前準備)
技能者がシステム上で自社に「所属」している状態(紐付け)にします。
- ✓ STEP2:技能者の就業履歴を正しく蓄積する(最重要)
レベル評価の審査では、「どの現場で、どんな作業を、どれくらい経験したか」が必ず見られます。
就業履歴が少ないと、資格があってもレベルが上がリません。
- ✓ STEP3:技能者の資格情報を CCUS に登録する
レベル評価は「資格の有無」が大きく影響します。資格登録が漏れているとレベル評価で不利になります。
- ✓ STEP4:技能者の施工実績(経験年数)を確認する
レベル 2→3、3→4 の審査では、「どの工種で何年働いたか」が重要です。
- ✓ STEP4:レベル評価の申請
技能者本人が行うほか、所属事業者が同意を得て代行申請が可能です。

職種ごとの「能力評価実施団体」へ申請し、評価手数料を支払います。

✔ STEP5:審査結果の確認と、次のレベルに向けた計画づくり

審査結果は技能者に届きます。

審査に合格すると、新しいレベルのカードが事業所等へ届き、システム上のデータも更新されます。

💡 運用のポイント(注意点)

レベルアップの手続きは「自動」では行われません。日数が溜まり、資格を取った段階で、事業者が定期的に「そろそろレベルアップできる技能者はいないか」をチェックし、能動的に申請を促す・代行する運用体制を作ることが重要です。

事業者にとってのメリットとは

技能者のレベルが上がることは、単に「職人のステータスが上がる」だけでなく、企業の競争力や利益に直結する強力な武器になります。

1. 経営事項審査(経審)での加点と入札有利化

公共工事の入札に参加する企業にとって、最も直接的で大きなメリットです。

- 「能力評価向上技能者数」による加点：経審の社会性等(W点)において、基準日後3年間に於いてレベル2以上にアップした建設技能者の割合に応じて加点されます。(最大10点)
- 「登録基幹技能者」等の評価：レベル4、3に達した技能者は、経審の技術力(Z点)においてレベル4は3点、レベル3は2点が与えられます。
- 総合評価落札方式での優遇：自社に高レベルな技能者が多く所属していることで、公共工事の総合評価落札方式において技術提案や企業評価の面で有利に働きます。

2. 元請企業への「施工能力」の客観的アピール

民間工事や元請・下請関係の取引においても、強力な営業ツールになります。

- 「見える化」による信頼獲得：元請企業に対して自社の施工品質や安全管理能力を強力にアピールできます。
- 見積・単価交渉の根拠：高い技術を持つ技能者を現場に投入する際、CCUSのレベルを根拠に「適正な労務単価(人工代)」の交渉がしやすくなります。

3. 若手採用の強化と離職防止

深刻な人手不足が続く建設業界において、明確なキャリアパスの提示することで従業員のモチベーション向上につながり、採用・人事面でのメリットは絶大です。

💡 事業者としての運用のコツ

メリットを最大限に活かすためには、「レベルが上がったら手当を支給する」「基本給を見直す」といった社内の評価・賃金制度とCCUSのレベル評価を連動させることがポイントです。これにより、技能者が自発的にレベルアップを目指す好循環が生まれ、結果として会社の経審ポイントや受注力の向上につながります。

経営状況分析センター西日本株式会社 [kjbc.co.jp](https://www.kjbc.co.jp)

Facebookもチェック <https://www.facebook.com/kjbc.co.jp/>